

# B型肝炎「和解を」

## 集団訴訟原告ら、国に訴え

子どものころの集団予防接種でB型肝炎ウイルスに感染したとして、国を相手取った

「民主党は政権に就いて変わってしまった」と落胆する声が出始めた。

集団訴訟Ⅱの原告らが、国に和解のテーブルに着くよう訴えている。3月に札幌、福岡両地裁が和解を勧告したが、長妻昭厚生労働相ら関係閣僚は原告らの面談要請にも応じていない。原告から、

「鳩山(由紀夫)首相が大切にするという命に、私たちの命は含まれないのか。せめて会って話を聞いてほしい」。東京・霞が関の厚生省前で20日に開かれた集会で、全国の原告らが民主党幹部に詰め寄



妻の京子さんに支えられデモ行進する田中義信さん＝20日、高波淳撮影

った。

2日間で全国から患者ら延べ約140人が厚生省前に集まった。肝がんや肝硬変など体調に不安を抱えながら参加する人もいる。東京訴訟原告の田中義信さん(51)は東京都中野区もその一人だ。

昨年1月、肝がんが見つかり、手術で肝臓を切除した。12月には再発が判明。今年1月に再入院し、2月に退院した。医師から「5年生きられる確率は50%」と言われた。札幌地裁で3月、最初の和解勧告が出たとき、「ようや

く明るい兆しが見えてきた」と前向きにとらえた。しかし、政府は1カ月たっても方針を明らかにしない。

1991年にB型肝炎ウイルスへの感染が分かった。両親とも感染歴はなく、輸血の経験もない。幼いころに集団予防接種を15回以上受けたことを示す母子手帳の記録を頼りに、集団訴訟に加わった。

これまでに抗がん剤治療を4回受けた。体のたるさがとれない。食欲もなくなり、体重が10kgほど減った。手術を受けたみぞおちは今も痛む。



### B型肝炎訴訟

2008年3月の札幌地裁

での提訴を皮切りに東京、新潟、大阪、広島、福岡など10地裁で計420人が国を相手にした集団訴訟で損害賠償を求めている。今年3月、札幌、福岡で相次いで和解勧告が出た。集団訴訟に先立つ裁判では、最高裁が06年、患者5人について国に賠償を命

じ、今年1月に施行された肝炎対策基本法でも国の責任が明記された。

国内の患者は約9万3千人、感染しているが症状が現れていない人は100万、130万人と推定される。母子感染のほか、輸血や医療行為による血液感染が原因とされる。集団予防接種による感染がどの程度あるかは解明されていない。

昨春、病室から見たサクラが胸に残る。「来年は見られるだろうか」。再発の不安がいつもある。「残された時間はない」。政府は早く決断してほしい。提訴後に亡くなった原告患者は全国で10人にのぼる。

23日、大阪地裁でも裁判長が「和解による解決が望ましい」と発言した。国は「政府の中で協議している」(長妻厚生相)と、札幌地裁が指定した5月14日までに態度を決めるといふ姿勢を崩していない。原告・弁護団は25日も各地で街頭に立ち、政府に和解を呼びかける。(北林晃治)